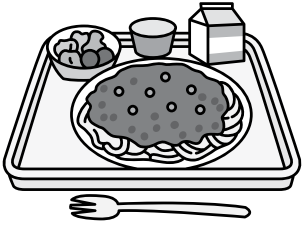


中学校給食について

園田 裕史 議員

Q 6月議会において提案した「中学校給食に関するアンケート調査」の実施について、時期や対象者、アンケート結果を今後どのように生かすのか確認する。また、調査結果によっては、中学校給食センターの建設着手時期の前倒しについても、検討を進めるべきではないか。

A 「中学校給食に関するアンケート調査」については、9月中に実施することとしており、対象者は小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒と、小中学生や公立・私立の幼稚園及び保育所、保育園の保護者を予定している。また、中学校給食センターについては、3年以内に着手したい考えに変わりはなく、仮にアンケート結果で全然違う状況が出た場合は、議会と相談の上、柔軟に対応する必要があると考えている。



郷土歴史を学ぶ 教育行政について

園田 裕史 議員

Q 仙北市との姉妹都市事業に関連し、本市出身のシンガーソングライターである、カツルミさんの楽曲で、戊辰戦争時の大村藩鼓手「濱田勤吾」少年を想い制作された「ひとひら」を、郷土歴史を学ぶ教材として活用することを提案する。また、大村少年合唱団やOMURA室内合奏団とのコラボレーションにより、新たな歴史文化事業のシンボルとして位置づけるべきである。

A 「ひとひら」を姉妹都市友好ソングとすることについては、市民に親しみのある曲となるように気運を高めていただき、市としては姉妹都市親善協会をはじめ、両市の関係団体に紹介し、支援ができるところは最大限の支援をしていきたい。また、同曲を新たな歴史文化事業として位置づけることについては、関係者に中学校の合唱祭などの中で作曲の経緯などを紹介しながら歌うことなどを提案してきたい。

大村工業高等学校の 中高一貫教育の実現を！

永尾 高宣 議員

Q 本市には全国が注目する大村工業高等学校があり、「資格試験」や「ものづくり」等において、毎年大きな実績を残している。特にスポーツにおいては、「日本一」に何度も輝き、本市を全国的に大きくPRしている。本市とともに歩んでいる大村工業高等学校を「日本一」優秀な人材育成の場である工業高校とするため、全国初の本格的な中高一貫の工業高等学校とすることはできないか。

A 中高一貫教育については、非常に困難ではあるが、県立であるため、県にこれから働きかけ、ぜひ取り組んでいきたいと考えている。また、県知事要望の項目とすることについても、庁内で早急に協議したい。

屋根付きゲートボール場 建設の陳情について

山北 正久 議員

Q 9月議会に「ゲートボール協会」から、雨天時も常時、練習や大会を開催することが可能な「屋内スポーツ施設（多目的）建設」

を求める陳情書が提出されている。諫早市では、すでに3カ所設置されている状況であるため、本市も要望にこたえるべきである。

A 屋根付きのスポーツ施設の建設については、今後、財源の確保や場所を考えるとともに、ゲートボール協会を初めとした利用が想定される関係団体などからの意見を十分に伺いながら、前向きに設置の場所や規模等について検討してきたい。

都市整備

「まち」に根付いた 公共交通機関の実現へ

野島 進吾 議員

Q 「日本一住みたくなるまち」の実現に向け、市民に根付いたバス路線を再検討すべきである。公共交通機関の充実こそが「まち」の発展と言っても過言ではない。超高齢化社会や財政面からもバス経営を考え直す時期である。また、新幹線の開通を控えているため、鉄道も含めた市内交通網の新たな構想を検討してほしい。

A 今後人口減少が進み、バス路線そのものの存続が懸念され